

公共ブロードバンド移動通信システムの概要

1. 背景

公共無線システムの現状

- ◆ 国、都道府県又は市町村その他の公共機関においては、災害時においても情報の収集及び伝達を迅速かつ確実にを行うため、各種の公衆網を使用するほか、輻輳のおそれのない自営網を整備。
- ◆ 市町村の他、消防関係機関や警察等においては、その業務の特質上、災害や事故・事件の現場に臨場する等、機動的に通信を行う必要があるため、特に移動通信技術を用いた公共無線システムを導入。

課 題

- ◆ 現在の無線システムは音声を中心であり、災害等に対して、適切な対応を迅速に行うため、現場からの映像伝送を行いたい。

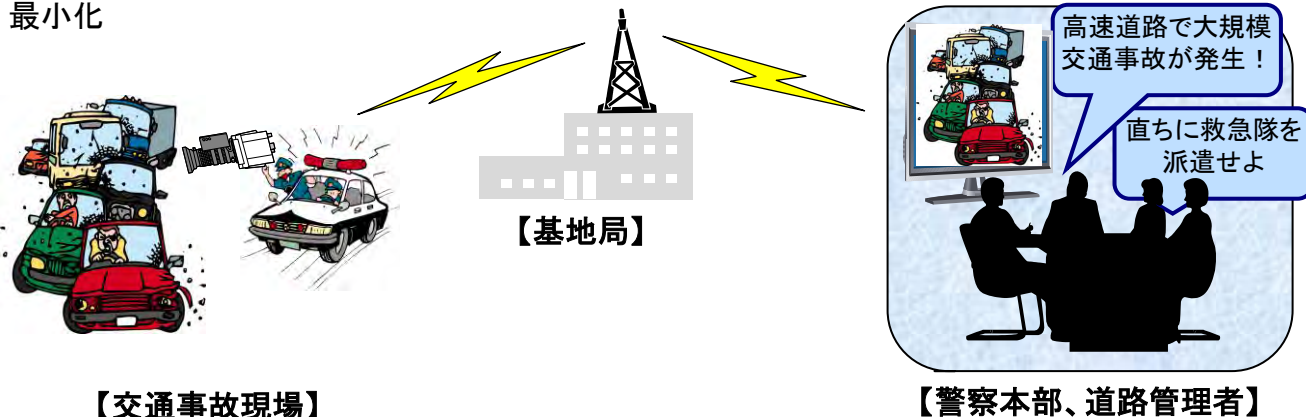
現在の無線システムの課題を踏まえ、音声伝送に加えて、機動的かつ確実に映像伝送を行う公共ブロードバンド移動通信システムを実現する。

- ◆ 対策本部等においては、現場の映像情報に基づき、迅速かつ適切な対処の指示が可能。
- ◆ VHF帯を利用するため基地局と移動局の間の通信距離は、3～5km程度確保でき、少なくともNTSCレベル（数百kbps以上）の画像伝送が可能。

2. 公共ブロードバンドの利用シーン

①交通事故現場での利用

- ◇ 交通事故現場や負傷者の状況を正確に把握し、的確な対処を指示することにより、事故の被害を最小化

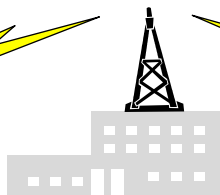
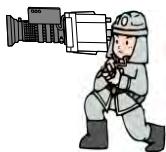


②火災現場での利用

- ◇ 火災現場の映像情報が火災規模、出動体制の判断・指示に活用され、災害被害が軽減



【火災現場】



【基地局】



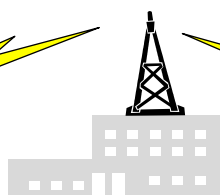
【消防本部】

③救急車内での利用

- ◇ 救急搬送中の患者の画像情報、医療データを確認しながら、医師が救急隊員に対し適切な処置を指示



【救急車内】



【基地局】



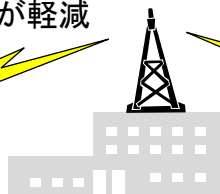
【医療機関】

④災害現場での利用

- ◇ 水害現場、土砂災害現場の映像情報が、避難指示、救助、機材の手配等の判断に活用され、住民が迅速に避難でき、災害被害が軽減



【災害現場】



【基地局】



【河川・道路事務所】